

秋田県健康づくり審議会
感染症対策分科会 新興感染症部会 議事要旨

日 時：令和6年11月5日（火）17:00～18:30

場 所：Web会議（Microsoft Teams）

出席状況：部会委員18名中15名出席

1 開会

2 あいさつ

秋田県健康福祉部 齊藤次長

3 部会長の選任

部会長：武田委員

4 報告

【秋田県感染症予防計画に基づく「医療措置協定」の締結状況について】

説明：事務局 保健・疾病対策課 武藤 順洋専門員

5 協議

【新型インフルエンザ等行動計画素案の概要について（資料2、4）】

説明：事務局 保健・疾病対策課 滝本チームリーダー

（武田部会長）

本会議では事務局から説明のあった4つの論点について、各委員からの質問や新型コロナ対応を踏まえたご意見をお願いいたします。

論点1 平時の準備を充実させるためについて、平時からの訓練を定期的を実施し、点検して改善するために必要な視点についてご意見をいただきたいと思います。

（伊藤委員）

平成26年に作成した前の秋田県新型インフルエンザ等行動計画に基づき、毎年各保健所単位で会議を開いてきたところですが、今回の新型コロナ感染症に対して、この行動計画がどれくらい役に立ったのか。どこに課題があったか、評価はしていますか。

（事務局 滝本リーダー）

今までの行動計画は、新型インフルエンザに特化した計画になっていたもので、抗インフルエンザウイルス薬の備蓄は、新型コロナウイルス感染症には役にたちませんでした。

今までの計画は、コロナのように変異しながら複数の波が長期間来ることに対応していなかった課題がありました。

役に立った部分は、県が備蓄していた防護服で、最初の段階で感染症指定医療機関などには配布できました。新型インフルエンザを対象とした訓練も、その内容とその流れ、考え方の一部は役に立ったと思います。

(伊藤委員)

これまでの新型インフルエンザ行動計画では、発生早期、感染期、小康期と段階がありました。今回の新型コロナは、変異が激しく何回も感染の波があつて計画していたことができなかつたと思います。

これまでの計画では患者を病院で診ることになっていたが、コロナでは自宅療養が出てきたので、これもどのようにやっておくかが、課題だつたと思つております。

(武田部会長)

それでは改めまして論点1の平時の準備を充実させるためにというところで、議論をしていきたいと思つます。

訓練の視点ですけれども、どなたかご質問等ございますか。

それでは、災害対応等で訓練のノウハウがある秋田県立病院機構の鈴木委員から何かご意見ございますか。

(鈴木委員)

県の調整本部のような仕組みを予め作るのは非常に難しいのですが、せめて初動の段階の仕組みの原案を作つて、それに則つてやつてみて駄目なところをフィードバックして、使える骨組みしていくというのが、平時の準備ということの骨子と思つます。

もう1つは、高次の病院がどんどんどん頼りにされてしまつて、ひっ迫し、救急搬送1つとっても大変苦勞をした。

そういうところを改めて、役割分担をあらかじめ決めて、実際にシナリオで訓練すれば、限界とか難しさとかがわかるようになる。

大まかな骨組みを作らないと、各部署で訓練しても混乱するので、そのところを大切にしていただければと思つます。

(武田部会長)

事務局の方では具体的なそのシミュレーションやシナリオみたいなものに関して考えはございますか。

(事務局 滝本リーダー)

先ほど鈴木委員がおっしゃつたような骨組みについては、この素案の中には書き込まれていません。コロナのノウハウを用いて、まず骨組みを作つて、それに基づく訓練することは非常に有意義な提案と思つますので、そのような方向で調整していきたいと思つます。

あと、計画に記載している県の対策本部は、今回、鈴木委員から助言いただいた調整本部とは違います。調整本部については、少し揉んだ上でまた皆さんにお諮りして、訓練に向けての体制を整えたいと思つます。

(石川委員)

うちは感染対策向上加算1の施設として、秋田市医師会と連携して、研修会とか訓練とかを行っています。しかし、外来感染向上加算のためだけに行われているようなかたちで全く広がりが無い。もっと有機的に幅のある訓練とか研修はできる体制をぜひ充実させて欲しいというのが、県全体に対するお願いという形になります。

(阿部委員)

先ほどの訓練の話で、事前に事務局からお送りいただいた、素案の行動計画の59ページの体制図が、患者さんの多分どこにどういうふうな流れで、どういうふうに配分してついているところが、考え方かなと思います。そこに机上訓練等でこういう患者さんがいて、先ほど鈴木先生がおっしゃったシナリオを作成した上で、この体制図に沿って、外側からどういう連絡体制を構築していくと、イメージがつくと思いました。

(武田部会長)

先ほど報告のあった、協定締結医療機関が有事に迅速に医療や検査の体制を立ち上げるために必要な指定について、迅速な医療体制の整備の視点で、今度は議論をお願いしたいと思います。

それでは秋田県内でコロナの初発例の治療に当たりました由利組合総合病院の黒木委員から何かご意見ございますか。

(黒木委員)

今までどおりコロナを踏襲して、素案を作り上げれば、わりと簡単にできるような気がします。それで十分対処できると思っています。

(武田部会長)

それでは仙台検疫所の熊谷委員の方からは何かございますか。

(熊谷委員)

検疫所でも、訓練はしています。

その中で、我々は自分たちの検疫措置の動きを確認しています。それからもう1つは、関係機関との連携ということに注視しておりまして、我々、検疫所が一体どんな措置をするのかをわかっていただけない限り、検疫所だけではミッションをコンプライートできません。皆様のご協力は得なければならないので、その点をわかっていただきながら、連携をどうとるか、ということで訓練をやらせていただいております。

その訓練っていうやる前に1回、我々が何をどのような枠組みで、さっき骨子というお話ありましたが、どのような枠組みでやるかっていうことが重要ですので、どのような段取りでやるか、手順でやるかということ協議の上で決めてから、或いは机上でいろいろシミュレーションした上で、訓練をやっていくのかなと思います。

(武田部会長)

すみません、迅速な医療体制、医療検査体制の立ち上げに関してはいかがでしょうか。

(熊谷委員)

まず平時体制の強化と、初動体制の検証が重要です。初動体制は、訓練やシミュレーションを通して、初めて検証ができるので、そのような観点についての訓練も必要と思います。

(武田部会長)

それではDXの視点です。新型コロナ対応でファクシミリでの発生届が問題となっていて、感染症指定医療機関にはWebシステムの報告が義務づけられましたが、疫学調査

をどのようにDX化していたらよいかなど、保健所と医療機関の立場からご意見を伺いたいと思います。秋田市保健所の伊藤委員からご意見何かございますか。

(伊藤委員)

発生動向調査では、初期の段階からどのように医療機関での発生状況を吸い上げるかという情報収集が重要。感染症指定医療機関、医師会、薬剤師会などの諸団体との協議会を定期的を開催し、常日頃の情報発信・収集をやっていなければ、感染症発生時にも対応できないと考えます。まず各団体、それから専門家、秋田大学の感染症センターと連携体制を構築していきたいと考えております。

(武田部会長)

それでは、論点2、幅広い感染症に対応し、機動的に対策を切り替えるために、ということでご意見をいただきたいと思います。

新型インフルエンザ、新型コロナ以外にも対応し、中長期的に複数の波が来ても対応できるようにするために必要な視点について、医師会の立場から石川委員何かご意見ございますか。

(石川委員)

今回のコロナでは、複数の波が来て、初めは情報が全然なかったので、尻込みをする先生方が多かったけれども、最後の方は、情報が行き渡って、対処方法がわかってきたので、医師会の方でも協力は得られやすかったと思います。ですから、詳しい情報をいかに隅々まで伝えていただけるかが重要になるので、よろしくお願いします。

(武田部会長)

今情報共有の話が出ましたが、県訪問看護ステーション協議会の菊地委員から何かご意見ございますか。

(菊地委員)

やはり、今、石川委員のおっしゃったように、情報が正しく伝わってこないとやはりどういうふうに接していいか、わからなくなってくると思います。今回の新型コロナで、どのようにしたらいいかを大分学んだところではあるけれども、情報をしっかり正しくいただいたうえで対応していくことは大事だとは思っています。

(武田部会長)

新型コロナはどちらかというと高齢者主体の感染症だったんですけど、今度流行してくるものは小児主体になるかもしれない。コロナのときは高齢者主体だったので、病院の対応は、結局最終的には落ち着いたけれども、仮に今度、小児が主体となる感染症が起こった場合は、今縮小傾向にある小児医療があつという間にパンクしてしまう可能性があります。人材の流動化や協力体制に関して何か県の方でお考えをお持ちでしょうか。

(事務局 滝本リーダー)

この計画ではないのですが、感染症予防計画に、人材の派遣に関する項目を設けていて各医療機関と協定を結んでいます。

その中で、マッチングできれば人材を派遣していきますし、あとは県で補助金を使って感染症に関する人材育成を進め事業もやっております。それで足りるのかっていう意見はあるのかもしれませんが、まずはできる範囲でまず対応します。

(武田部会長)

人材の育成、それから協力体制ですね、そういったことも含めて、今後、中長期的な対応というのを考えていっていく必要があるんじゃないかと思います。

それでは論点2の経済とのバランスということで、感染拡大防止と社会経済活動のバランスをとり、状況に応じて機動的に対策を切り替えるために必要な支援ということについて、県障害福祉団体協議会の三浦委員からはご意見ございますか。

(三浦委員)

障害者施設は通所系と入所系の2つに分かれるんですけども、入所系が感染症になると、影響が大きいと考えています。コロナの時も、いつまでその感染症が収束するか、わからない中で、受け入れるかどうかは非常に悩ましい問題として、考えさせられました。要するに、インフルエンザ、その他の感染症に対してもやはり、今回のこのコロナの対策がベースになってくると考えております。

今、介護サービスそれから障害サービスは、人材不足という非常に大きな問題がありまして、クラスターが発生したときに、果たして何日くらい自分たちの職員のその手駒でまわしていけるのか、非常に心もとない状況が、今あります。

(武田部会長)

経済とのバランスについて、嵯峨先生、ご意見お願いします。

(嵯峨委員)

事務局にお尋ねします。今回の会議のメンバーは医療福祉の方々です。経済とのバランスを考えることもミッションにすると、その方面の方と、一緒に話さないといけないと思います。どんなふうにギアチェンジするか、方針をバランス取って変えるのか、その会議体は、この会議になりますか。それともまた別の会議を新たに創設するイメージですか。

(事務局 六澤課長)

ご意見ありがとうございます。

この行動計画の特徴の一つが、県民経済県民生活全般に影響のあるものでありますので、そういった視点からの意見っていうのは非常に重要であります。今回のこの部会のメンバーには、そういった視点でお話できる方っていうのはちょっと少ないのですが。

県としては、新たな会議を持つわけではないんですけども、経済団体のご意見を事務局として、聞く機会を設けたいと思っておりますし、パブコメなどを通じて幅広くご意見をいただきます。それから県庁の産業振興の部局にも意見を聞いておりますので、事業者視点から意見を集約することは後の作業にやっていきます。

(嵯峨委員)

ありがとうございます。

(武田部会長)

続きまして論点3、人材の確保育成を進めるためについて、ご意見をお願いいたします。人材の確保育成のため、危機管理部門、それから広報部門等を含めた訓練研修実施のための記載について、必要な視点ご意見はございますか。

(嵯峨委員)

行政の感染症の危機管理人材育成には IHEAT 研修がありますが、我々も多くの先生方のお力添えをいただいて今、施設向けの研修及びその方々への指導者の感染制御の指導者育成研修を行わせていただきます。

あちらこちらでそれぞれ別々にやって、お互いに何をやっているのかわからない状況でない方が多分良いと思います。

テーマは多分それぞれいろいろでいいと思いますが、それらを組み合わせたときにきちっと全体を見渡した訓練計画、研修計画になっていることが大事だと感じました。

2018年19年と、我々は、エボラの疑似症の対応で大規模訓練をやったときに、到底できっこないような気がしていたんですけども、当時、「訓練を分けて、そのパーツパーツを1ヶ月に1回ぐらい実施して、最終的にそれを組み合わせて、当日の大規模な訓練つなげるといいよ。」とアドバイスを受けて、実際そうしました。お互いの訓練研修のその横の連携ができるといいと思いました。

この会は、まずこの計画を改正することが目的だと思いますが、本来その計画がうまく動いているかを確認する場、フォローアップの場があるといいと思います。

(武田部会長)

今後、確認の場はどうなっていますか。

(事務局 六澤課長)

この部会の中でも継続的に検証していく必要があると思っております。訓練をすることで様々な課題が見えてくると思いますので、そうしたものを検証しながら計画も随時見直しを図っていくということを今後も続けていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

(武田部会長)

ありがとうございます。他にどなたかご意見ございますか。

(伊藤委員)

先ほど嵯峨先生からもお話ありましたが IHEAT 要員の確保ということで、行動計画でも78ページの準備期、82ページの初動期にも、IHEAT 要員の育成ということで書かれております。それで、秋田市で作成しました感染症予防計画の中でも、まん延期の場合は IHEAT の支援が十分にいるということで記載しております。

ただ、現状は、秋田市分登録が59人。その中で所属の了解を取れているとか、そういうことを含めて、19人が人員確保されていることになっています。けれども、実際、そういう人が感染拡大期に、会計年度任用職員のかたちで果たしてどれだけ勤務できるかは、かなり難しいと思います。現実的に、平時から何人か雇用できるような環境であれば、確保はできるかもしれないけれど、どこかに所属している人が、行政の臨時職員として果たしてどこまで機能できるかが難しいところです。

何か県で考えているいい方策とかありますか。

(事務局 石井副主幹)

IHEAT 研修は、今年度も県で1回開催することになっており、令和7年の1月15日に開催します。それ以外にも、保健所職員なども参加する専門の国主催の研修にも年2回参加しているところです。その他に潜在保健師とか、そういった方たちにも呼びかけ研修を積み重ねています。そういった人材の育成が非常に重要ですので、県としても継続していきたいと考えています。

コロナのときはIHEATに関しても、県の保健所を中心に協力していただいた経緯がございます。そういった方達も継続して登録していただいておりますので、そういった方たちを含めた人材育成を継続します。

(事務局 滝本リーダー)

伊藤委員がおっしゃったように、実際にその方が投入できるかは、難しいと思いますので、伊藤委員のいう平時からの確保を進めたいところですが、予算の関係もあり、ハードルが高いと思います。

今、石井が言ったように研修を継続することで、過去に手伝っていただいた方にまずは来てもらうような働きかけをします。過去に、協力いただいた方は、今後も協力していただける可能性は高いと考えており、そういう方を中心に研修を継続して、1人でも多く投入できるように進めていきます。

(武田部会長)

今、県のお話が出ていましたが、地域の中核の医療従事者とか保健所職員の育成という面で秋田厚生医療センターの福井委員からご意見ございますか。

(福井委員)

まず僕たちこの病院でやっていることをご紹介します。定期的に病院同士で感染症の会を開き、その時に保健所の方いらしていただいて、いろいろな話題を共有して、その対応の仕方を勉強しているところです。

そういった病院同士だったり、保健所の方々だったり、あと、時々診療所だったりクリニックの先生も近隣からいらっしゃるので、そういった方々と顔を見える関係で、感染症を中心としたその話題が提供して、そういった会を続けていって連携していくというような、そういった地道な定期的な話し合いをこれからも続けていきたいと思っております。

(武田部会長)

それでは、論点の4に進めさせていただきます。

論点4、その他、秋田県独自の視点で推進すべき項目について、ご意見を伺いたいと思います。

事務局イメージでは、社会福祉施設等職員の感染症対応能力を高めるための研修、現在行われておりますが、施設内療養時適切な対応が行われるように医療機関との適切な連携を促す等の、本県独自の特徴的な記載が必要ではないかという投げかけがありましたが、これについてはいかがでしょうか。

それでは、県老人福祉施設協議会の萱森委員の方から何かご意見ございますか。

(萱森委員)

コロナの初期の頃、我々も現場では大変混乱したんですが、すぐ医師会の協力をいただきまして、いろんなゾーニングも含めてご指導いただいたことを大変ありがたく思っています。我々、介護老人施設は、まず嘱託医の先生の指導を受けるので、医師会の連絡も、ご指導、方針も含めて、ぜひ連携を深めていただきたい。

また、現場の職員が危機感を持ってないと、対応が進まないのも、ぜひ方針がこの部会の方針が決まりましたら、現場の職員の研修会もぜひ企画していただきたい。この2点を私の意見とします。

(武田部会長)

はい。ありがとうございます。嗟峨委員お願いします。

(嗟峨委員)

施設の研修に関して、我々も、これまでの ACOMAT の先生方の取り組みを何とか中長期的に続けて、前に進んでいくことが大事だと思っております。我々は、確かに新型コロナで非常に難儀した場所が何か所かあり、医療者だとか保健所の職員の方だとかが本当に業務の多忙さに追われて、大分くたびれて、場合によっては職場や役割を外れてしまっていたと思います。

今回の素案の中でも、保健所の方や、医療者の方々に対するメンタルサポートの重要性も盛り込んでいただいておりますが、高齢化が全国一である秋田県の特徴を踏まえて、高齢者が孤立してしまっていて一層 ADL が下がって、フレイルが進んでしまうので、この辺りの対応をしっかりとやっていくことは重要と考えております。

私たちの感染統括センターは、疫学部門に感染疫学というかたちで、孤立を取り組まれている野村先生がいて、そういう要素も新型コロナで難儀した部分の1つなので、しっかりしていくと良いと思いました。

以上です。

(武田部会長)

そこら辺のところは盛り込んでいくような感じでお願いいたします。

それでは現在施設向けの研修、嗟峨委員が中心になって行われておりますが、企画、実施に関わっています県看護協会の阿部委員から何かご意見ございますか。

(阿部委員)

福祉施設等の研修に関しては、先ほど嗟峨委員からお話がありましたが、こちらは希望という形にはなりますが行動計画の5ページにあります。こちら高齢者施設、今現在、嗟峨委員を中心としてやっている研修案内が、参考としての載っているこちらの行動計画に載っていますので、これは私の認識ではこれが次年度以降も継続されて6年間、継続して行われていくので行動計画に盛り込まれているという考えでよろしいか、確認します。

看護協会でも県の委託で感染対策リーダー研修が、昨年から行われています。こちらの研修は先ほど嗟峨委員からありましたように、やはりいろんなところで、いろんなことをして、急にやめられないものもありますので、そこはきちっとその内容を共有することが、非常に重要と思いました。

(事務局 滝本リーダー)

6年間、こういう社会福祉施設向けの研修を続けるということを計画に盛り込めるかということですが、意気込みとして、表現を工夫しながら、そういう方向性を入れることは可能と思います。今いただいた意見は反映させて、何とか工夫して入れ込みたいと思います。

(阿部委員)

はい。ありがとうございました。

(武田部会長)

来年度以降の実施は、不透明なんですか。

(事務局 滝本リーダー)

こういうソフト事業について自治体の予算は、年度で予算要求します。今のような発言は、県事業への応援と受けとめながら頑張っていきたいと思います。

(事務局 六澤課長)

補足させていただきます。この行動計画の中に、人材育成という形で盛り込むということについては、継続してやっていくんだらう、と思っております。ただ、先ほども別のところでも申し上げましたけれども、訓練や人材育成をやった上でいろんな課題も出てきますので、全く同じやり方を続けていくかということについては、今後ですね、随時見直しを図りながら、ということになろうかと思っております。大変重要な視点ですので、我々としてはこの行動計画の中に盛り込むことで、何らかの形で継続してやっていくと、より実効性のあるものにしていきたいと、いうふうに考えておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。

(武田部会長)

1年限りの事業だとするとそこで途絶えてしまいますし、今、中長期的なとか人材育成という話が盛んに出ていますので、形態を変えていく形にはなるかと思っておりますが、継続していけるようよろしくお願いいたします。

その他、論点4の秋田県の独自の視点について、何かご意見ございますか。

それでは、協議はこれで終了させていただきます。

協議の冒頭で説明がありましたように、素案に対する意見は、別紙様式で、11月22日まで、事務局宛提出してくださるようよろしくお願いいたします。なお本部会で各委員から発言いただいたことについても、事務局は計画素案に取り入れていただくようよろしくお願いいたします。

皆様の協力のおかげで、本日予定していた議事はすべて終了できました。

(事務局 門脇副主幹)

武田部会長、議事進行、誠にありがとうございました。

また、委員の皆様におかれましては引き続き、素案への忌憚ないご意見等をお願いいたしたいと思っております。

これをもちまして、本日の健康づくり審議会 新興感染症部会を閉会いたします。

本日はお忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございました。

(以上)